

◇ 11月の天文暦 ◇

日時	記	事
2 10	月	最近
3 22	朔	
6 23	火星	留
7 15	金星	西方最大離角
8 10	立冬	(太陽黄経 225°)
11 3	上弦	
14 9	月	最遠
15 10	土星	留
19 7	望	
23 8	小雪	(太陽黄経 240°)
26 16	下弦	
29 6	水星	外合
30 10	月	最近

☆ 天文教育施設めぐり (10) ☆

九州

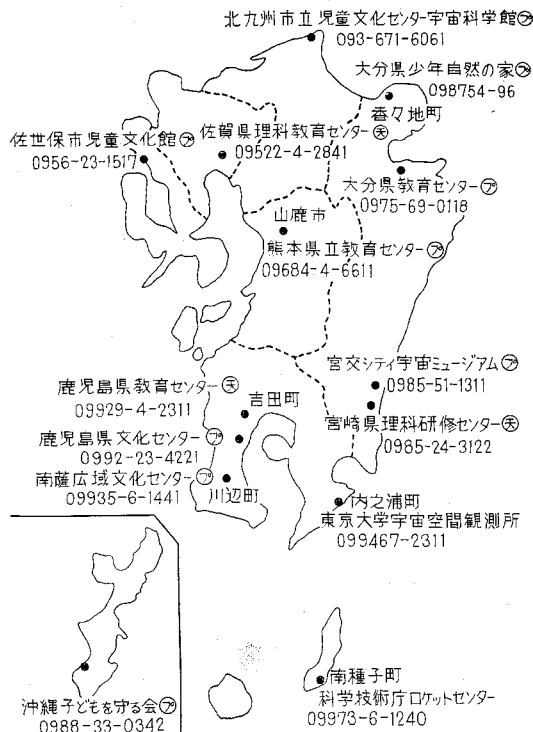
近年、宇宙科学への関心が高まるとともに、九州でも天文台・プラネタリウム等の天文に関する観測・教育施設が、各県に設置されるようになった。

各施設のうち、教育センター・理科研修センターに設置のものは、主として教職員の研修のためのもので、特別な場合を除いて、一般には公開していない。

天文台は、これらの研修センターの他に、学校に設置された天文台・私立の天文台など十数箇所がある。

プラネタリウムのうち、一般公開しているものは6箇所、土・日・祝日にも投影しているところが多い。いずれも、毎月の解説話題をきめて、40~50分の投影を行なっている。また、団体利用の場合には、要望に応じて学年別の学習投影を行なっているところが多い。なお、投影時刻・休館日などは、各所まちまちであるので、利用の際は注意を要する。

これらの施設の中で、早期に設置されたものは、鹿児島県文化センター・沖繩子どもを守る会で、開館以来10年になる。ともに五藤光学製 M-1 型で、ドーム直径10m、収容人員約120名。鹿児島県文化センターには、



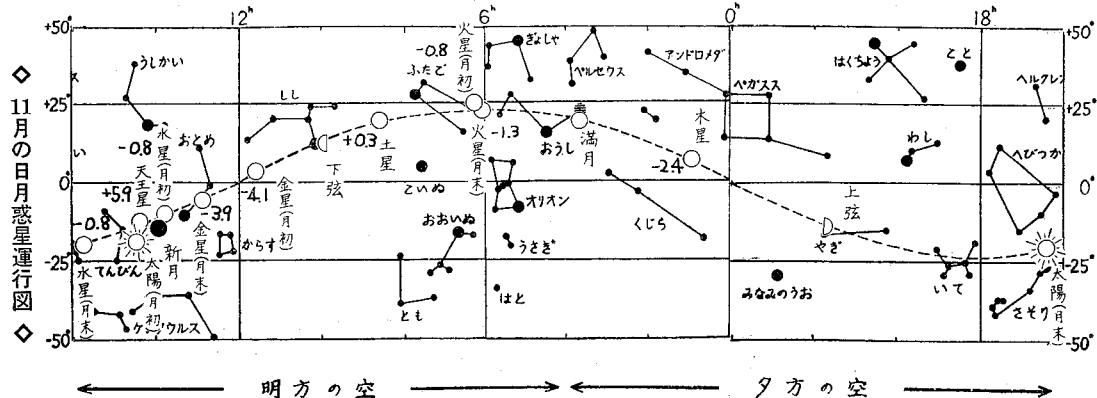
五藤光学製 30 cm 反射赤道儀も設置、天体観望会も催される。

1971年、北九州市立児童文化センター宇宙科学館に国産大型プラネタリウムが設置された。五藤光学製 L-2 型で、ドーム直径 20m、収容人員 450名。天文展示室には、大型の惑星運行儀など多くの展示がなされている。

1973年、宮交シティ宇宙ミュージアムが開館された。五藤光学製 GM-15 型で、ドーム直径 15m、収容人員は 200名。オート演出が可能で、1日 7~8 回の投影を行なっている。ドーム周辺は、天文展示場になっている。

天文教育施設ではないが、鹿児島県内之浦に東京大学宇宙空間観測所、種子島に科学技術庁ロケットセンターがある。業務に支障のない限り、見学ができる。宇宙空間観測所には、宇宙科学に関する展示館もある。

(屋敷昌広)



← 明方の空 → ← 夕方の空 →